

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 西 脇 中 学 校
校長氏名	北 垣 有 信
作成日	平成 28年 2月 15日

1 教育目標

共に 豊かに 生きる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<p>◎家庭との連携を密にし、保護者や地域に信頼される学校をめざす。</p> <p>◎地域の共育コミュニティ等と積極的に交流し、地域と共に育つ学校をめざす。</p>	<p>◎道徳教育を推進し、基本的な生活習慣や規範意識、学習規律を育成するとともに社会貢献に資する精神を育む。</p> <p>◎学校行事や学級活動などを通して「誠実で、思いやりがあり、個性豊かな生徒」を育む。</p>	<p>◎よくわかる授業、生徒の興味・関心・意欲が増す授業の工夫・改善により、生徒の学びの自己実現を支援する。</p> <p>◎キャリア教育を充実させ、個々の進路をしっかりと見極める生徒の育成を図る。</p>

取組の状況【D】	<p>◆「ぐるりんメール」とホームページを活用して、学校の予定や様子を情報発信し、家庭との連携を密にする。</p> <p>◆小中連携、生協会や愛育会の活動、共育コミュニティ事業等を通して、本校教育への理解と協力を得る。</p>	<p>◆生徒実践目標「あ（挨拶）、そ（掃除）、べ（ベル着）」の指導を徹底する。</p> <p>◆WISH・Gアプローチ・「学びの共同体」授業や、教室掲示などを通して、より望ましい学級・学年集団」づくりに努める。</p> <p>◆道徳研究授業(特別講師招聘)</p>	<p>◆「学びの共同体」授業実践により授業についての研修を深めて授業改善をはかる。(一人一公開)</p> <p>◆ゲストティーチャーから多くを学んで授業改善に活かす。</p> <p>◆数学科におけるTT授業</p> <p>◆定期考査時の補充学習</p>
(評価結果【C】) 取組の成果と課題	<p>■メールとHPの活用により、学校の情報提供についてのアンケートが92%の肯定評価を得た。</p> <p>■科学技術部や吹奏楽部などが小学校で活動を披露したり、生徒会が地域高齢者施設に訪問したり、と活動が広がった。</p>	<p>■「挨拶・掃除・ベル着」は、生徒の間に定着してきた。</p> <p>■「学びの共同体」他の実践で協働的な学びができつつある。</p> <p>■教室掲示などに、各学年のオリジナルな工夫が見られる。</p> <p>■特別講師による道徳授業を参観・研修した。</p>	<p>■公開研究授業をほぼ月一回のペースで実践し、計20人の授業公開と研究協議ができた。</p> <p>■コア・ティーチャーの研修報告から多くを学んで授業改善に活かすことができた。</p> <p>■テスト前補充学習の方法については検討が必要である。</p>
改善方法【A】 次年度に向けての	<p>○メール・HPについて、内容を精選しながら継続して配信に努める。</p> <p>○共育コミュニティの活用をさらに充実させる。</p> <p>○学校行事への保護者の参加を促す。</p>	<p>○「あ・そ・べ」を継続して徹底指導する。</p> <p>○「道徳」授業実践の公開・交流</p> <p>○「学年・学級づくり」を意識して進め、「学び合いの授業づくり」でよりよい学習集団づくりを目指す。</p>	<p>○「協働的な学び」(グループ学習)を取り入れることで、学ぶ楽しさを追究できる授業づくりを進める。</p> <p>○「朝の読書」の充実をはかる。</p> <p>○テスト前補充学習と、「3点固定」を合い言葉にした家庭学習の充実をはかる。</p>

3 その他の課題

昨年度の主題「学びの基礎を築く学級づくり」に加えて、今年度は「学び合う授業づくり」を研究主題とした校内研修に取り組んできた。WYSH教育、Q-Uを活用したGアプローチ授業、そして「学びの共同体」スタイルの授業改善と、研修が大変充実した一年であったが、残念ながら和歌山県学力到達度調査(12月)の結果は、依然厳しい状況にある。次年度も「学びの共同体」による授業改善(グループ学習)は継続し、本校が従来取り組んできた「集団づくり」も合わせて、学力面での結果を出していかなければならない。

生徒指導・生活指導面にも課題は残されており、学習の規律や意欲、「居場所と出番のある学校生活」を保障できる学校運営でありたいと考えている。